

RiPPo

Ritsumeikan University Graduate School of Public Policy Alumni

2014 SUMMER News Letter

CONTENTS

- 01 副会長挨拶
- 02 加茂利男教授 × 古岡校友会会長対談
- 03 新幹事のご紹介・長濱人語
- 04 校友会からのお知らせ

公務研究科校友会 副会長 大竹 美紗子

お陰様で校友会も設立4年目に突入しました。ちょうど私が就職する年に、副会長就任を打診されたので、私の職業人生と同じペースで歩んでいると言うことで何だか感慨深くもあります。

春は変化の季節で、皆様も大なり小なり何らかの変化がかもしれないかと思います。私は、にわか仏教徒でそのあたりの教養に乏しいのですが時々、何かの「ご縁」を感じることがあります。この春の人事異動もそうでした。この春の定期人事異動で、予防接種係に鞍替えすることになり、市町村の保健衛生部門の最前線で、最新の予防接種制度の動向を踏まえながら、市内医療機関と連携し、安心・安全な予防接種の実施に努めています。

最近、調べたところ、江戸時代末期に遡りますが、今、大阪にいる親類も元を辿れば、石川県の大聖寺の出身で、その中の一人が大聖寺藩医・渡辺卯三郎でありました。この人は私から数えて5代前、曾祖父の父にあたるそうです。渡辺卯三郎は石川を出て勉学のために大阪を目指し、適塾に入塾し、3年だけですが塾頭を務めました。かの緒方洪庵とも親しくしていたようです。

適塾と言えば日本初めての官許種痘所が思い浮かぶ人もいるかと思いますが。幕府から官許を得るのはもう少し後ですが、1849年には既に開所して種痘を始めていたと言うことで、日本で初めて予防接種を実施した施設の1つになっています。ひょっとすると、当時適塾にいた渡辺卯三郎も開設・運営に関わっていたのかもしれませんが。全くの偶然ですが、子孫が予防接種に行政の立場で関わっているというのは不思議なこともあるもとだと感じます。

今回は、私の新しい仕事という小さい変化でしたが、この先もどのようなご縁があるか分かりません。人との出会い、巡り合わせが人間をつくる土壌になるので、こういったご縁をこれからも大切に出来ればなと思います。校友会で出来るご縁も同じです。同窓の友人、先輩、後輩との今のご縁を大切にすると同時に、これからどんなご縁があるのかと楽しみにしています。

RiPPo事務局

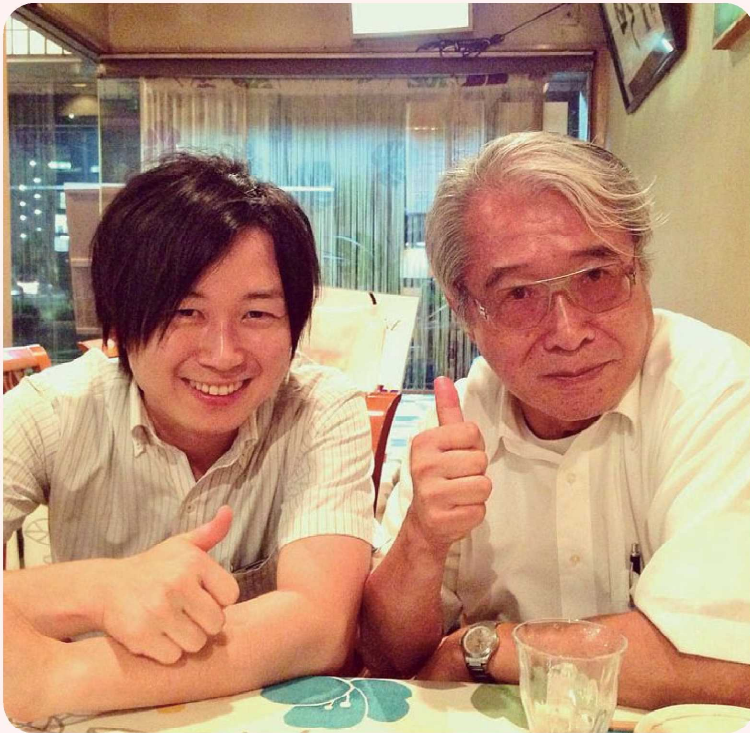
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

TEL 075-813-8274

Email rippo@st.ritsumei.ac.jp

URL <http://www.ritsumei.ac.jp/gssp/rippo/>

加茂利男教授 × 古岡校友会会長対談



公務研究科教授

加茂 利男

Toshio Kamo

「公務研究科の現状と未来」

公務研究科校友会会長

古岡 俊平

Shunpei Furuoka

古岡校友会会長（以下 古岡）

お久しぶりです。

公務研究科加茂教授（以下 加茂）

ずいぶん久しぶりですね。

古岡

公務研究科の現状を教えてくださいませんか？

加茂

現在の公務研究科の院生はピーク時の約半分程度の人数になっています。

古岡

人数が減って変わったことなどはありますか？

加茂

人数は確かに減りましたが、授業やリサーチプロジェクトの雰囲気などは全く変わっていません。研究科設立当時よりリサーチプロジェクトは週に2時間、複数の教員と院生が集中して議論をするので、院生が非常に短い期間で学力だけでなく政策力や対話力を身につけていると実感しています。

古岡

公務研究科の実務家の教員に学べる仕組みは定評がありましたね？

加茂

実際に公務の分野で人材育成に関わってきた実務家教員がいることで、公務員になり公務の仕事とは何かということとを院生のうちにシミュレーションできるということは公務研究科の一つの大きな強みですね。

古岡

研究科長が変わったことによる公務研究科の変化は何かありますか？

加茂

研究者出身の水口前研究科長から公務人材育成に従事してこられた鶴養現研究科長に代わって、たしかに少し研究科運営の流儀や雰囲気は変わってきていると感じています。どこがどう変わったか、具体的には説明しにくいのですが（笑）いい変化だと思っています。とりあえず、変わるということが、刺激になっているのだと思います。

古岡

来年度より政策科学部と政策科学研究科が茨木キャンパスに移転することが決まっていますが、公務研究科への何か影響はありますか？政策科学研究科は公務研究科と関わりの深い研究科ですが。

加茂

政策科学研究科が移転するというのは大きな変化です。公務研究科の発足当初は、政策の先生がたくさん講義やリサーチプロジェクトに加わっておられたし、両研究科合同で公開シンポジウムなどをよくやって、お互いに研究科のイメージやリーチを広げてきたと思います。これからはそんなに日常的なつながりは持ちにくいので、公務研究科としては、限られた教員の中で独自の色を出す必要があります。公務研究科は、政策のスキルや専門知識もさることながら、公務マインドを重視した研究科運営をしてきたと思いますが、その特色をどう発展させるかですね。

古岡

公務研究科を取り巻く環境は変わっても、校友会は研究科の活動を見守っていますので、これからもよろしくお願いたします。

加茂

こちらこそよろしくお願いたします。

取材日 2014年 7月8日

場所 立命館大学 朱雀キャンパス

取材・原稿 古岡 俊平

写真 一谷 耕